

新教育システム導入

イーソーコグループで人材シエア

イーソーコ(遠藤文社長、東京都港区)グループは、将来的にグループでの人材のシエアや社員のマルチプレーヤー化を狙い、各社共通の教育システムを新たに導入した。1~12日に初めての物流不動産新人研修を合同で実施。各社の位置付けと補完関係の意識を新入社員のうちに徹底させ、グループの連係プレーに貢献する人材を育てる。

イーソーコは、物流不動

産検査サイト「イーソーコ・ドットコム」の運営と物流不動産のマスターリースが主力事業。グループはコンサルティング部門を手掛けるイーソーコ総合研究所(河田榮司社長、同)、情報技術(IT)部門を分社化したイーソーコドットコム(早崎幸太郎社長、同)、イーソーコの母体となった東京倉庫運輸(池田隆社長、同)グループで構成している。

これまで各社で人材の採



用と教育を行ってきたが、「専門職として入社した社員は、それだけやっていたらいい」という感覚になりがち」(大谷巖イーソーコ副社長)のため、グループで教育を共通化。専門職の

社員を各社に出向させることで、所属会社と出向先の両方でスキルアップできる体制を整え、少ない人材で最大効果を目指す。

1日からの新人研修では6人が参加し、物流不動産ビジネスでのイーソーコグループの役割などを学んだ。写真。大谷副社長は「90年の歴史を持つ東京倉庫運輸グループと、物流業界で革新的なビジネスを展開するイーソーコグループの教育が融合することで、教育する側も学ぶ側も刺激になる」と話している。

(石井 麻里)